

日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation) の一員として、20ヵ国60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



年次報告 2014.7-2015.6

今年度も温かいご支援を賜り
心より感謝を申し上げます

支援は着実に実を結んでいます

「全世界で極度の貧困の中にある人々の数は、1990年の19億人から半分に減少しました。しかし、今でも8億3,600万人が極度の貧困に苦しんでいます。途上国地域では5人に1人が一日30円未満で暮らしています」「全人口に占める割合が最も高い地域はサハラ以南のアフリカで、およそ4人に1人が栄養不良に陥っています」「栄養不良が原因で死亡する5歳未満の子どもは年間310万人と、子どもの死者数のほぼ半数を占めています」「開発途上国では就学年齢の子ども6,600万人が空腹のまま学校に通っていますが、アフリカだけでも2,300万人に上ります」「世界的な進歩に関わらず、サハラ以南のアフリカと南アジアが子どもの死者数に占める割合は増大しています。5歳未満で死亡する子どもの5人に4人はこれら2地域で暮らしています」「毎年600万人を超える子どもが、5歳の誕生日を迎える前に命を落としています」

これらは、国連が持続可能な開発のための2030アジェンダの開発目標ファクトシートとして今年9月に発表したほんの一部です。そして、全世界の人々が同じ目標に向かって、課題解決のために進んでいまいしょうと呼びかけています。それは貧困撲滅であり、飢餓に終止符を打つこ

とであり、すべての年齢の人々が健康的に生きることであり、子どもたちがみんな教育を受けることであり、男女間差別をなくすことであるなどが記されています。

飢餓、貧困問題は必ず解決できる、それがJIFHの信念であり、皆さんと一緒にやって行う取り組みです。圧倒的な数字の前に挫けそうになることがあります。しかし90年代初頭より着実に、かつ確実に状況は変化しています。アジアや南米を取り巻く状況は厳しくはありますが、変化が起こっています。

例えばFHカンボジアではかつては米国や日本人が責任者でしたが、新しい責任者はフィリピン人女性です。FHフィリピンのスタッフは元里子だった人がたくさんいます。ボリビアの小西さんが信頼をおくスタッフも元里子です。バングラデシュでもJIFHの支援地であった所からアウトカースト出身のスタッフが生まれています。数字に圧倒されそうになりますが、みなさんのご支援は決して無駄にはならず、実を結んでいきます。年次報告をさせていただきますが、みなさんの尊いご協力があるからと本当に感謝しております。飢餓を終わらせるためにこれからも共に歩んでください。

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久



地域に「希望の光」を
困難を乗り越え再建中

東日本大震災から4年8ヵ月が経過しましたが、現在も多くの方が東北を忘れずに支援を続けてくださっていることに、被災者も現地で活動している者も、大きな励ましを頂いています。ここに改めて感謝を申し上げます。被災地はそれぞれの場所で、復興工事が急ピッチで進められています。今夏は仮設住宅を出られる方が多くなりました。しかし、あと2、3年先という地区もあります。広範囲に渡る甚大な被害を改めて感じます。

当機構は、支援物資の提供、置き薬プロジェクト、慰問コンサート、被災建物の再生支援などをさせていただきました。そして韓国飢餓対策機構(KFHI)の協力を得て、仙台市宮城野区蒲生で流失した「シーサイドパイプ

ルチャーチ」(内藤智裕牧師)の会堂再建が今年の10月から始まっています。(写真)

新会堂は、津波被害跡地から10kmほどの内陸地に建てられます。建築は日本人技術者と韓国人技術者の協力のもとに進められていきます。教会堂が完成した時には、震災を乗り越えた群れとして地域に『希望の光』を照らす役割を果たしていくことでしょう。

2016年「国際協力カレンダー」

価格：1部税込1,080円。年末年始の贈り物に最適です。送付はお申し込み順。10部以上で割引。WEBからも購入可。お求めは、(株)キングダムビジネスまで。
TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

4千口突破!
40112口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
**お電話でも申し込み
できます。各事務所
までおかけ下さい。**

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ
住所: _____

..... (電話) _____

▼申込日: _____ 年 月 日▼NL 304号

FAX・072-920-2155

- 発行者 岩橋竜介
- 発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
- Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>
- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで
- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155

東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782

東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132

広 島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037

沖 縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンスム 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216

U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするため、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業のご協力を下さっています。

飢餓と貧困の撲滅のために自立を支援

世界の飢餓人口は8億人、9人に1人が今も栄養不足に苦しんでいます。そしてサハラ以南のアフリカでは、4人に1人以上が慢性的に栄養不足状態です。国連は、10年前、「2015年までに世界の飢餓人口を半減する」というミレニアム開発目標を掲げましたが、ある程度の成果にとどまりました。そして2015年9月25日「持続可能な開発サミット」において、ミレニアム開発目標で積み残された目標を達成する為に、新たに17分野の「持続可能な開発目標」を採択しました。(1面に関連記事)その目標の1は、貧困の撲滅、2は飢餓の撲滅です。

日本国際飢餓対策機構は、多くのサポーターのご協力を得てアジア、アフリカ、南米の現地パートナーと共に「ここから始まる飢餓」の撲滅のために、また人々の自立の支援に日々活動しています。

Hunger Zero 海外パートナー

- LIAエチオピア
- FHケニア
- FHウガンダ
- FH南アフリカ
- FHジンバブエ
- 韓国FH
- バルナバス・ファンド
- ケニア・コイノニア教育センター
- ケニア・シーブケアセンター
- ルワンダ・ピース国際学校
- LIA南スーダン
- ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ
- ウガンダ・アガベ・ホスピタル・ミニストリー
- ルワンダREACH

学校給食支援(ケニア・コイノニア)

この1年の活動状況



国内避難民支援(コンゴ民主共和国)



ブルンジ難民支援(ルワンダ)



カサレ小学校支援(ウガンダ) ①⑥



ハンガーゼロサポーターになって下さい

ご支援は毎月一口1,000円から、最終頁の申込み欄またはウェブサイトからクレジットカードで募金も可能です。

アフリカでは、紛争によって多数の避難民の支援が必要になりました。ルワンダではブルンジからの難民の支援、コンゴ民主共和国での国内避難民の自立支援を行いました。ウガンダでは2014年秋から地元の人たちに協力して支援をしていた、カサレ小学校の校舎が出来上がり、野外の木の下で勉強していた子どもたちに教室が与えられました。ニジェールで2012年からスタートした持続可能な地域変革研修(VOCセミナー)は、2013

年のコンゴ民主共和国に続き2015年夏にはケニアでも行われました。

子どもの教育支援では、世界7ヵ国(ボリビア、ウガンダ、ルワンダ、ケニア、バングラデシュ、カンボジア、フィリピン)で世界里親会による活動が行われています。また、南スーダン、ケニア、カンボジアでは給食支援を通じて、子どもたちの栄養状態改善と共に、学校に続けて通えるよう支援しています。

緊急支援

この1年も国内外で様々な大規模自然災害などで苦しむ方々への支援を行いました。その度に多くの皆様から募金が寄せられるとともに、ボランティア活動にも参加していただき、困難な状況にある人々に手を差し伸べることができました。

海外

■バヌアツ サイクロン

2015年3月13日から14日にかけて南半球の島バヌアツを、大型サイクロンが襲いました。JIFHは、パン・アキモトによるパンの缶詰とカメヤマロウソクのローソク、中京医薬品からの医薬品の提供を頂き、国際飢餓対策機構ニュージーランドを通して、18の地区の被災者にお届けすることができました。また448,765円の募金が寄せられました。

■ネパール 大地震

2015年4月25日にはネパール中部で大地震が発生、5月12日から27日まで吉田知基を派遣し韓国飢餓対策機構と共に米、塩、テント、洗剤、パンの缶詰などを配布。又ヒマラヤトレッキングサバナ代表の浅原氏の協力を頂いて、山間部の被災者に携帯電話の充



ネパール緊急支援(山間部の被災者とソーラーランタン)

力を合わせて愛の手を差しのばす



フィリピン台風被災者支援(サマル島・学校再建)

電にも使えるソーラーランタンを配りました。9月10-19日には8名のボランティアメンバーと共に、ダーディンで避難テントにおられる方々や子どもたちの心の面での支援を様々な形で行いました。また韓国飢餓対策機構と協力して、山間部の学校建設(再建)の計画も進められています。皆様から5,262,121円の募金を頂きました。

■ルワンダ ブルンジ難民

2015年6月のブルンジにおける大統領選挙にまつわる抗議グループと軍、警察の衝突で、隣国ルワンダへ約3万3千人が避難。FHルワンダを通して食料や生活用品の支援を行いました。

■フィリピン 巨大台風

2013年11月に発生した巨大台風30号(現地名:台風ヨランダ)によってフィリピンのレイテ島やサマル島に甚大な被害をもたらしました。この災害に対してJIFHは日本の皆様のご支援を受けてハンズ・オブ・ラブ・フィリピンやFHフィリピンらと協力しながら食料支援や復興支援ボランティア派遣など様々な活動をさせていただきました。2014年7月には森祐理親善大使によって被災地の学校や教会などでコンサートが行われま

した。大阪シオン教会の若者たちを中心にスタートした「バルナバプロジェクト」によって、サマル島の被災した学校に新しい校舎を建設することができました。

国内

■広島 土砂災害

2014年8月20日早朝に広島市を襲った大規模な土砂災害では、広島宣教協力を主体に広島事務所が協力して安佐南区八木、緑井地区および安佐北区可部東地区で被災住宅の泥だしなどの支援を行いました。

活動拠点となる宿泊場所は、三滝グリーンチャペルのご協力をいただき、パン・アキモトやキリンビバレッジ、中京医薬品からは物品の提供を受けて、被災者の方々の



広島土砂災害被災者支援(八木地区)

必要に応えることができました。また多くの方々から募金が寄せられました。また、今年6月には森祐理親善大使の慰問コンサートが、可部東と八木で行われました。

アフリカ		402,740,465
ウガンダ		14,095,367
世界里親会		10,066,937
カサーレ小学校校舎建設支援		4,028,430
ルワンダ		8,047,826
世界里親会		3,250,354
ピースインターナショナル学校支援		1,926,240
海外駐在スタッフ／河合朝子支援		2,871,232
南スーダン		1,233,400
ルンバック村マブイ小学校給食支援		1,233,400
ケニア		8,366,974
世界里親会		3,286,047
〈シーブケア学校〉		
給食支援		2,306,000
パンの缶詰輸送費		1,174,927
コイノニア学校支援		1,600,000
ガーナ		319,965
KFHI バクシネ親善大使活動支援		319,965
ニジェール		1,082,600
食糧緊急援助		1,082,600
タンザニア		503,216
パンの缶詰輸送費		503,216
コンゴ民主共和国		4,990,123
ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ		4,962,000
海外駐在スタッフ／ジェローム・カセバ支援		28,123
シエラレオネ		364,047,997
医療物資（輸送費含む）		364,047,997
ブルキナファソ		62,997
児童就学支援		62,997

アジア		35,957,941
バングラデシュ		6,147,760
世界里親会		6,147,760
カンボジア		5,969,836
世界里親会		3,933,236
子ども教育センター豆乳支援		2,036,600
フィリピン		22,623,945
世界里親会（ビコール）		6,114,705
世界里親会（カパタガン）		3,517,788
マラボン市女性の収入向上プロジェクト		307,920
ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン		6,402,700
図書室・手洗い場（ビコール）		630,882
タワービル高校支援		90,899
海外駐在スタッフ／酒井保支援		5,559,051
パキスタン		1,216,400
女性病院支援		1,216,400

南米		71,785,308
ボリビア		12,832,909
世界里親会		9,449,024
海外駐在スタッフ／小西小百合支援		3,383,885
ニカラグア		29,713,032
物資支援（輸送費含む）		29,713,032
グアテマラ		29,239,367
物資支援（輸送費含む）		29,239,367



子どもの教育支援と地域開発支援
(ボリビア・リオカイネとアサウニ)



ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンの住民参加型の村調査
(ミンドロ島ナウハン県シド村)

海外緊急支援		7,011,209
ルワンダのブルンジ難民支援		498,923
バヌアツサイクロン支援		1,238,696
ネパール地震支援		1,043,303
〈フィリピン台風支援〉		
マブハイ小学校再建		1,667,040
被災学校支援		1,004,760
被災者支援		599,000
マラブット高校修復		689,297
森親善大使被災地慰問		270,190
国内支援		26,134,610
東日本大震災被災者支援		23,642,558
広島土砂災害被災者支援		2,492,052

その他		8,785,100
国際飢餓対策機構フェデレーション活動資金		3,011,500
AINOTE（愛の手） 2015 年北米地区活動委託費		594,100
ビジョン・オブ・コミュニティ・フェロシップ協力金		3,011,500
国際飢餓対策機構 分担金		2,068,000
カナン農業学校		100,000

支援合計 5 億5,241万4,633円

※数字の単位は全て円です。
※駐在スタッフの支援金には、年金・海外旅行傷害保険などが含まれています。

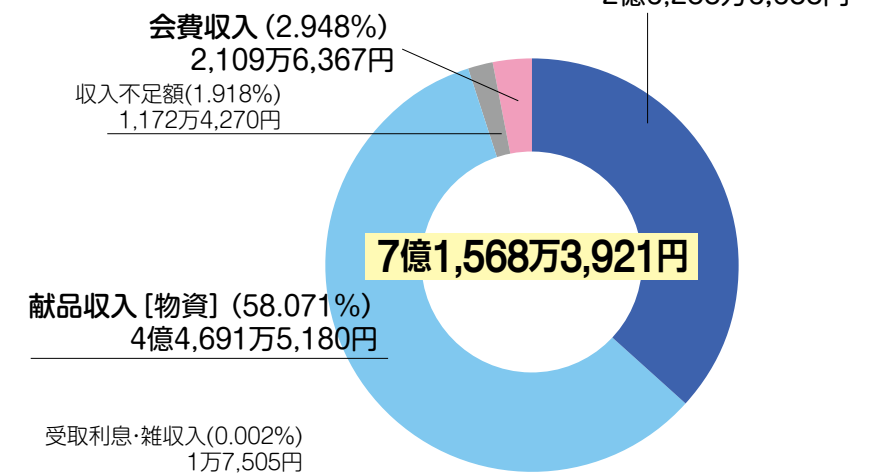
以上の通り報告します。

2015年6月30日

一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋 竜介

決算報告

収入の部



支出の部

事業費 (96.2%) 6億8,820万861円

内訳 ・支援総額 5億5,241万4,633円 (77.2%)
 { 海外支援 5億2,628万23円 (73.5%)
 国内支援 2,613万4,610円 (3.7%)
 ・教育啓発活動費 1億3,578万6,288円 (19.0%)

運営費 (3.8%)
2,748万3,060円

7億1,568万3,921円

監査報告書

一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋 竜介 殿

私たちが監事 朝倉 幸、吉田 伸の両名は、
一般財団法人日本国際飢餓対策機構の2014年7月1日から
2015年6月30日までの第5期会計年度における財産増減計算書
および貸借対照表を監査いたしました結果、適法かつ正確である
ことを認めます。

2015年8月4日

監事 朝倉 幸

監事 吉田 伸

第5期決算公告

平成27年9月26日
大阪府八尾市弓削町3丁目74番地の1
一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋 竜介

貸借対照表の要旨
(平成27年6月30日現在) (単位：千円)

科	目	金	額
資の産部	流動資産		51,781
	固定資産		25,517
	合計		77,298
負債財及産部の正部	流動負債		3,352
	固定負債		1,000
	負債合計		4,352
	基金		3,000
	指定正味財産		0
	一般正味財産		69,946
	正味財産合計		72,946
	合計		77,298

官報10月16日に掲載

世界里親会

2014年度は、カンボジアで2つの地域の支援を終えることができました。5月に現地で行われた記念式典にサポーターの皆様と共に参加しました。そして、ご支援へのあふれる感謝と笑顔、現地の人々が希望を抱いて自らの足で歩み始める姿を見せて頂きました。教育によって子どもたちの将来が開かれ、さらにはその地域や国を変革する人へと成長することを願って、共に活動を進めてまいりましょう。皆様の尊いご支援を心から感謝いたします。

南米

ボリビア

活動地：コチャバンバ州アサワニ
ポトシ州リオカイネ
支援里子数：338名

学用品のプレゼントを始め、家庭菜園・学校菜園の活動を通して栄養バランスのとれた食事がとれるよう改善を進めています。また農業で生計を立てている人が多く、収穫量（収入）が降雨量に左右されるので、この危険を避ける為に異なった作物を栽培できるよう支援しています。

アフリカ

ウガンダ

活動地：ナムトゥンバ地区
マガダ、イジランゴビ
支援里子数：498名

カサーレ小学校の校舎建設をきっかけに、子どもも保護者も学校への関心が高まり、授業の出席率が上昇しました。ハイスクールに進級する生徒に対する奨学金支援、寄生虫駆除や健康診断、菜園での野菜栽培を進めるなどのプログラムが実施されています。

希望をもって学んでいる子どもたち

アフリカ

ルワンダ

（ピース国際学校）

活動地：首都キガリ、ニャンザ
支援里子数：116名

首都キガリ校舎は、ルワンダ政府の土地計画により2014年12月をもって閉校しました。里子たちは同校から文具等の支援、スタッフのサポートを受けながらほかの公私立校で学んでいます。ニャンザ校の敷地に建設中の寮の完成を待つて、新年度よりピース国際学校に復学への予定されています。

アフリカ

ケニア

（シーブケア学校）

活動地：ナイロビ郊外
支援里子数：115名

小学校とハイスクールに通う学生の学びを支援しています。また大学進学を目指す志しがあるけれども経済的に困難な学生を対象に、パソコンによる通信教育を利用できる設備を導入しました。引き続き学校給食の提供もしています。

アジア

フィリピン

活動地①：ミンダナオ島
カパタガン

支援里子数：123名

ハイスクールへ進学する生徒に制服を提供しました。提供を受けた子どもの家庭は感謝の気持ちを表す寄付をし、小学校の生徒たちの学用品の一部がまかなわれました。またトイレと給食調理場の改築が行われました。

活動地②：ルソン島ピコール地域
スラ、マトノグ

支援里子数：224名

台風被害を受けて避難していた方々に緊急食料支援を行いました。母の日のお祝い会には日頃の感謝を手紙に託すと共に、チョコレート首飾りを贈ってお母さん・おばあさんを抱きしめました。

アジア

バングラデシュ

活動地：マチュパ
支援里子数：307名

貯蓄グループを活用した保護者のグループ活動（識字・健康衛生・栄養の学び）に加えて、小学校就学前の幼児向けに幼稚園の働きを行っています。また子どもたちは健康診断を受けることができました。

アジア

カンボジア

活動地①：オドー・メンチェイ州
アンロンベン郡2地区

支援里子数：32名

活動地②：シェムリアップ州
スパイラー

支援里子数：198名

5月、①アンロンベン2地区の自立を祝うセレモニーに参加しました（NL7月号に報告）。FHカンボジア職員は新しい活動地であるスパイラーへの転居を始めました。

サポーターさん大募集



570人の
子どもたちが
あなたの支援
を待っています

【サポーターさんに届くもの】
・里子紹介資料（初回）
※きずなノート
・成長記録（年1回）
・クリスマスカード（年1回）
・手紙や写真の交信（随時）



里親会費 4,000 円の内訳

- ・現地活動費
- ・学費の他、里子にかかわる家族、地域、学校に使われます。
- ・国内事務経費

★里子へのクリスマスカード受付中です！

国内啓発

開発途上国の人々に目を止め、具体的に活動してくださっている教会の数が 2,000になりました。定期的な講演会やセミナーの開催、秋の世界食料デーに合わせた特別礼拝や日用品バザーなどを通じて、募金協力をいただいています。

また、様々な支援グループが当機構の親善大使を招いてのチャリティコンサートを多数実施されました。今年は新たな親善大使として、ナイトdeライトに加わっていただいたことで、今までとはまた違った支持層が増えることが期待されます。

● ファシリテーター トレーニングキャンプ（春・夏）

春のTCU（東京基督教大学）での開催に続けて、今年の夏はフィリピンにおいて ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンの協力を得て行いました。活動地である現場を訪問し、講義と実際に学びました。

● 世界食料デー

今年度の世界食料デー大会は全国23カ所で開催されました。各

わたしから始める…支援者の取り組み

地の大会では、支援者が実行委員会を形成して、講演や現地報告、音楽コンサートなどが行われました。地元の市長や学生がプログラムに参加される大会もあり、市民による国際交流の輪が広がっています。

2014年の世界食料デーで頂いた計15,508,539円の募金（大会での募金と個人やグループからの一食分募金の総計）は、アジア、アフリカ、南米で貧困や困難な環境の中で生きる人々・子どもたちを支援するプロジェクト（学校給食・教育）や難民支援のために使わせていただきました。

● 学校への取り組み

全国64カ所で、出前授業や講演会、各種イベント参加などを行いました。（保育園1、幼稚園2、小学校26、中学校11、高等学校16、短期大学、大学8）国際理解や国際協力をテーマにした総合学習授業、団体の勉強会などにスタッフ

を講師として派遣。

大阪の中学校では、学んだ学生らが話し合って「私たちができること！世界に貢献！」というスローガンを立てて、各クラスに募金箱



生徒会の募金活動（高校）

を設置、協力を始めています。

名古屋では国際理解教育の授業を受けた高校生が、ネパールの地震被災者支援のために街頭募金をしたり、東日本大震災の被災者の為にバザーや募金活動をしてくださいました。

また各事務所では地元中高生の職場体験を受け入れました。中高生には、職業体験とともに、世界の飢餓と貧困の状況も学んただき、自分に何が出来るかを考える機会となりました。

自立開発

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン…人づくりのための第一歩

フィリピンでは、現地NGOのハンズ・オブ・ラブ・フィリピンが教育支援と地域開発を続けています。その一つミンドロ島サンアンドレス村では、子どもの教育支援とともに、様々な事情で就学を断念しなければならなかった大人たちに教育機会を提供、自分の可能性を広げて、生活改善につなげていく取り組みが続けられています。

においてより高等な訓練も受けることにより、就労の機会を増やそうとしています。



2013年、サンアンドレスのボランティアたちから学校に行っておらず、仕事についていない青年や婦人たちに何かできないか？という声があがりました。

そこで私たちは話し合って、資格試験を受けるための、補習授業の機会を提供しました。参加者はまだ10名に満たない程ですが、学

力認定試験に合格する人も出て、少しずつ成果が生まれてきています。復学には難しい年齢になってしまった青年、婦人たちが、自分の将来にビジョンを持ち、それが実現することで、地域全体にもよい影響を与えていくことを願っています。（酒井保）



補習プログラムに参加する女性

世界里親会チャイルド・サポーターのしくみ

チャイルド
サポーター

手紙など
成長記録
支援金・支援活動

各 国 の
現地事務所